

優秀賞

## 壁は作らず、越えるもの

茨城県 久保谷 喜枝子

孫の幼稚園の最後の運動会に行き、念願のランドセルを買って、楽しく帰宅した私を待っていたのは、町からの健康診断の結果表であり、肺の影の再検査案内だった。

翌日から病院通い。CT、細胞診、PET等の検査の結果、肺癌。左肺を半分切除の手術をし、抗癌剤二年間服用となった。

退院し、初めて目覚めた朝、私の目の前が突然崩れ落ちた気がし、明日への道をドーンと壁が塞いでしまった。心が完全に崩落してしまったのだ。その日から、日が暮れると、いもしれぬ不安が私を襲い、苦しくて、とにかく寝てしまおうしかない日が続いた。

突然、命の期限をさられたような気持ちになり、庭の手入れもせず、楽しく買い物をすることもせず、友の集まりにも出ず。只、ただ一人、四方をガツチリと壁で囲んだ中に、うずくまっているような日々を過ごした。

そんなある日、ふと、ここまで生きてきたのだから、もういいかなあと自然に思った。これはとんでもないと気づき、自分に驚いた。この壁の中から出ようと初めて自覚した。

幸いなことに、他で通院している女医先生が、カウンセラーのように気持ちを聴いてくださった。途中で帰ってもよいと好きな美術館巡りも始めた。仕事も再開した。

そして、三年四年と過ぎたある日、四面壁に囲まれて、心の片隅にいつもあった癌という塊が、スーッと遠のいていくのを感じた。

七十数年、いろいろな壁にぶつかり、越えてきた。これからもまだ、たくさん壁にぶつかるだろう。それは、一つ一つ、のり越えていけばよい。もう、自分の周りに自らが壁を作ることとは、二度としたくない。

病を得て、多くのことを学んだ。

自分自身を見失わずに、壁を作って辛さを経験したからこそ得られた人の優しさと、助けられている人々への感謝を忘れず、命ある一日一日を、大切に生きていこうと思う。